

大阪市廃止・「大阪都」構想再び否決

市民の分断を乗り越え、歴史的な勝利

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL) 6765-8904
(FAX) 6765-8905

11月1日、大阪市を廃止して4つの「特別区」に分割する、いわゆる「大阪都」構想の賛否を問う住民投票がおこなわれ、大接戦の末、「反対」(69万2996票・得票率50.63%)が「賛成」(67万5829票・得票率49.37%)を上回り、大阪市の存続が決まりました。前回2015年の住民投票に続き、市民が「大阪市の廃止NO」の審判を下しました。

「党利党略」によって2度目の住民投票に

今回の住民投票は、5年前の審判を踏みにじった大阪維新の会が、新型コロナウイルスの収束が見通せない中で強行しました。

前回の住民投票で反対した公明党を抱き込むために、公明党が議席を持つ大阪衆院選挙区に維新の「刺客」を送り込むことをちらつかせて「党利党略」のもてすめられました。そして、「特別区」の新



制度案は新庁舎を造らず、いまの中之島本庁舎を3特別区の「合同庁舎」にし、職員も多くが他の自治体ではたらくなど、災害対応などでも支障をきたす恐れがあり、自治体の体をなしていませんでした。住民サービスの面でも「特別区」設置時(2025年1月1日)は(住民サービス)を維持するが、それ以降は「維持に努める」だけで何の保証もないなど、不十分な中身で破綻があらわなものでした。



市民が良識の審判



9月の世論調査では「賛成」の方が10ポイント程度高く、維新・公明が圧倒的に優勢とみられていました。維新は、ビラやテレビCM、新聞広告など、4億円とも言われる資金を使ってメリットのみを宣伝しました。さらに行政も私物化して宣伝をおこなうなど、維新にとって都合のいい情報しか出さない姿勢には、市民から不信と不安が続出しました。大阪市廃止に反対の意見

よりよい大阪を願って 今回の勝利は、大阪の前途に希望をもたらすとともに、維新の政権補完と野党共闘のぶしの野望に打撃を与え、国政にも大きな影響を与えるものです。同時に、維新政治を転換し、大阪市政、大阪府政を市民の手に取り戻すたかいはこれからです。

大阪市の持てる大きな権限・財源を使って、新型コロナウイルス対策をはじめ、福祉・医療・教育・防災・中小企業支援に力を

に対しては「デマ」や「誤報」と語気を強め、あげくに、市の財政局長が総務省の教式に基づいて示した「大阪府廃止で行政コストが年間218億円増大する」と公表したデータを「ねつ造」と恫喝し、国会でもマスコミ批判をするなど、常軌を逸した行動を見せました。

大教組・大障教も加わる大阪市をよくする会と明るく、民主大阪府政をつくる会は、「大阪市廃止か130年の歴史ある大阪市の存続か」「住民サービス低下か、大阪市の力を生かした拡充か」「コロナ禍でなおカジノ・インバウンド頼みが続けるのか、いのちと福祉、くらし第一への転換か」を争点に押し出し、大阪市廃止・分割の正確な情報を知らせ、市民とともに考える「100万対話」などのとりくみを展開しました。

よりよい大阪を願って



注ぎ、市民のだれもが安心して、市民の声で動く自治体づくり、真の経済成長をとげる街へと変えていくことは、今回「賛成」に投じた方を含め、垣根をこえた市民大多数のねがいです。

大障教は、今回発揮された市民の良識と共同の力をもとに、「くらし最優先」の大阪を実現するために奮闘します。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



「勝てば官軍負ければ賊軍」。道理はどうあれ、勝った者が正義者になると言いたくはない。恐ろしい。

橋下徹が府知事だった時、学力テスト結果公開で「クソ教育委員会」と発言し、大阪を「破産会社」と決めつけ、福祉や教育予算の大幅削減を強行した。府立学校で長年働いていた350人の教務事務補助員の「雇止め」を強行し、「イルミネーションの方が大事」と彼は言い放った。維新の会が進めた「保健所や病院つぶし」は、大阪の「コロナ死亡率の高さ」と無関係ではない。まさに、やりたい放題の「官軍」だった。

やりたい放題と言えば住民投票もそうだ。維新の会は5年前、「最後のチャンス」と主張した。賛否は拮抗し、市民に「分断」が持ち込まれた。「住民の福祉の増進」を求められる知事が、自らの野望(関西州設置)のために府政を進めることに強い怒りを覚えた。

前回の住民投票で、反対が上回ったにも関わらず、知事・市長のダブル選挙で「民意を得た」として維新の会は2回目の住民投票に突き進んだ。彼らは平気で嘘をつく。勝つまでじゃんけんを繰り返して、「勝てば後戻りできない枠組み」で選択を迫る手法は、これまた「官軍」の様相だ。

今回の住民投票結果を受け、市議の「ノーサイド」にして、制度いじりではなく、当たり前の自治体に戻しながら市民と一緒に市政をすすめていきたい」との言葉が心に響く。「政治家冥利に尽きると、自身の役割を理解せず述べた人に言いたい。自治体の役割は、「住民の福祉の増進(地方自治法)だ。

真の民主主義を理解しようとする勢力に未来はない。(久)

あなたがあなたらしく生きぬくことが大切

教育のつどい大阪2020全体会

9月19日、「教育のつどい大阪2020」全体会が、大阪市立阿倍野区民センター大ホールで開催されました。新型コロナウイルス感染症対策に十分留意した集会には、教職員・父母・府民あわせて200人近くの参加があり、大障教からは受付等の要員も含めて12人が参加しました。

「学校教育をどう問い直すのか」

開会のあいさつでは、実行委員長の奥野さん（大阪の高校を守る会）会長）から、「再編整備計画の中で、当たり前だった教育環境が悪化している」として、「子どもの教育環境の充実を最重要課題として、教育行政のあり方を再確認するよい機会とし、教職員、保護者、地域がともに考えていきたい」と述べました。



実行委員長の奥野さん

育施策全体の流れの中でまとめる報告をしました。そして、教育のつどい大阪で大切にしたいこととして、『学校教育を『誰のための教育なのか』とあらためて問い直す』、『目の前の子どもたちの実態から教育課程をつくる』という原則に立ち返った教育を考えよう』と呼びかけました。

「評価されない」温かい環境

記念講演では、作家の寮美千子さんが「子どもたちの心を開く詩の教室」というテーマで講演をおこないました。



講演する寮美千子さん

寮さんは、「レンガ建築が好き」という理由で、奈良に引っ越した際に奈良少年刑務所を訪ねました。そのことがきっかけで、統括官から「虐待や貧困、発達課題を

理解してもらえない中で、人間らしく扱われず、罪を犯すまでに心を閉ざしてしまつた子どもたちに、詩や絵本

「空が青いから白を選んだのです」

寮さんは、「空が青いから白を選んだのです」という詩を書いた少年のエピソードを紹介しました。少年は、

「空が青いから白を選んだのです」という詩を聞いて、空を見てね。私はそこにいるから」と言ってくれたこと」を語り

「空が青いから白を選んだのです」という詩を聞いて、空を見てね。私はそこにいるから」と言ってくれたこと」を語り

母親のことを考え、母親の気持ちになつて書かれた、たった一行の詩の向こうにある物語を聞き、教室の子どもたちが手を挙げて、優しい感想を言ってくれました。寮さんは、「こんなにも豊かな想像力を持ち、優しいことをかける子どもたちが、なぜ重罪を犯すまで

追いつめられてしまったのだらうか」と感じたそうです。そのような中、普段は声が出ない少年が、手を挙げて絞り出すように「僕はお母さんを知りません。でも僕もこの詩を読んで空を見上げたら、お母さんに会えるような気がしてきました」と言つて泣き出してしまいました。教室の子たちはその子にも優しい声をかけました。

参加者の感想です

- 寮さんの言葉は、寮さんが出会った子どもたちの姿や表現からつかみ取られた宝石のような言葉の山でした。自己表現が安心してできる学校でなければいけないと心の底から思いました。
- 「子どもを評価しない」ということが安心の場になるということが心に落ちました。子どもたちの鎧を脱がせられる「詩の教室」をやってみたく思いました。

心の鎧を脱げる場所

寮さんは、「詩の教室」を通して、罪を犯した子どもたちが、自己表現を真剣に受け止めてくれる仲間がいることで癒され、心の鎧を脱ぎ、閉ざしていた心の扉を開いたとき、出てくるのは全て優しいことばである



集会は新型コロナウイルス感染症対策に十分留意して行われました

最後に、『あなたの存在が嬉しい』『その子がその子らしいことを喜ぶ』、学校がそういう愛情を注いでもらえる場、ホッとできる場であればと思う』と学校に対する思いを語り講演を終えました。